



かながわ湘南西

障福ナビだより



令和 5 年 1 月 31 日 第 123 号

社会福祉法人 常成福祉会 丹沢自律生活センター総合相談室

〒259-1302 神奈川県秦野市菩提 1711-2 ☎ 0463-71-5872 Fax 0463-75-3377 E-mail: soudan@jousei.or.jp

湘南西部圏域に医療的ケアを必要とする方が利用できる グループホーム 「ユミト」誕生

「NPO 法人 障害児・者・家族サポート事業所 スプラウト」は、平成 19 年に設立し、平成 20 年から生活介護事業・日中一時支援事業、平成 25 年からは放課後等デイサービス事業を運営しています。令和 4 年 12 月 1 日からは新たに、日中サービス支援型共同生活援助事業所「ユミト」を開所しました。医療的ケアを必要とする方が利用できるグループホームとしては、湘南西部圏域では初となるばかりではなく、3 政令市を除いた神奈川県域でも極めて珍しい事業所になります。今号では、開所して間もないところにお邪魔して、管理者の丸山さん、法人理事でサービス管理責任者の下司さんからうかがったお話を報告します。



住宅街にひっそりと佇む真新しいユミトの外観

「ただ、見過ごせなかった…。それだけです。」

今から 10 年ほど前のことですが、生活介護利用者さんが、ご家庭の都合で急遽、自宅を離れなければならなくなり、入所施設を探すことになりました。しかし、県内施設がいっぱいで、県外施設に入所するしかなく、その方はやむを得ずその道を選ばざるを得ませんでした。この出来事をきっかけに、生活介護利用者ご家族の間に、将来の親亡き後の生活の場の確保に対する不安が一気に高まりました。我々としてもその状況を見過ごすわけにはいかず、何とかできないだろうかと考え始めたことが始まりです。しかし、グループホームは全くの未知の領域であり、当然のことですが、“小さな NPO が手を出すことではない”という現実的な意見が法人内で大勢を占め、経営の見通しもつかないことから、具体の進捗はありませんでした。それでも目の前にある課題は解決しないままですし、あきらめきれず、いつか何とかしたいという気持ちを持ち続けたまま、平成 28 年には、ご家族、関係機関の方々と横浜にある医療的ケアを必要とする方が入居するグループホームを見学しました。ここでは、具体のイメージを持つことができ、大変勉強になった一方で、横浜市独自の補助金などの活用が前提の運営であり、看護師を配置したグループホームを神奈川県域で実現することの難しさも実感しました。転機が訪れたのは令和 2 年秋です。地元の工務店さんから一本の電話が入りました。我々の生活介護事業所から車で 5 分ほどの場所にある工務店の土地活用のために、そこに新たに建物を建てて、賃貸として利用できるというのです。ここからすべてが動き始めました。神奈川県、平塚市など多くの方々からご助言をいただき、令和 3 年 5 月に法人理事会、総会で承認を受け、やっと形になることが決まりました。



スタッフと支援を振り返る丸山さん（右）



各居室とつながる広々としたリビング

「ユミト」の特徴

平塚市の住宅街にある、定員9名のグループホームです。3月までに全ての方の入居が完了する予定です。医療的ケアを必要とする方が3名、発作のある方が4名で、援護地は平塚が8名、伊勢原が1名、年齢構成は、20代5名、30代2名、40代2名です。建物は2階建てでそれぞれのフロアに広いリビングルームがあり、その周りにトイレ、一部屋8畳ほどの個室が配置されています。1階の浴室には、ストレッチャーに寝たまま入ることができるお風呂があります。スタッフは、日勤と3交代の職員がいて、その中に看護師も含まれます。夜間帯の看護師配置は現時点では難しい状況ですが、夜間の往診もして下さるクリニックのバックアップをいただきながら今後も体制を整えていくつもりです。

開所して間もなく感じた手応え

法人内の生活介護事業所を10年ほど前から利用していたAさんは、中途障害により濃厚なケアが必要です。当初はほとんど自ら意思を表出することはありませんでしたが、ご本人とのコミュニケーションを大切にされた支援を継続することで、うなづきなどにより次第に意思表示の機会が増えてきていました。「ユミト」が開所する半年ほど前、介護するご家族の事情で在宅生活の継続が突然難しくなります。ご家族は、やむにやまれず、これまで利用していた短期入所施設に事情を説明し、なんとか緊急の入所の約束をとりつけます。しかし、相談員さんが入所する意思を確認したところ、ご本人は深いうなづきで「ユミト」への入居の意思をはっきりと表出されたことから、関係者のご協力により、「ユミト」開所までの間を短期入所で行うことができました。入居されてからは、ご本人の強い希望（深いうなづき）により、サッカーワールドカップの早朝の日本戦、深夜の決勝戦をライブで観戦されました。先日は新たに“（かつて飲んでいた）お酒を飲みたい”という希望を確認することができ、主治医にご相談しながら実現に向けて調整中です。現場の職員は、ご本人が入居後に明らかに意思表示が豊かになったと感じ、生活場面でのその方の意思決定を支え、実現につなげる取り組みに手ごたえを感じ始めています。

大切なこと

ご家族が切羽詰まった状況で今後のご本人の生活の場を決めるのではなく、前もって、ご本人を含めたご家族皆さんでその方にとっての自立と今後の生活の仕方について話す機会が必要です。そして、何より、そこに複数の選択肢があることが重要なのですが、医療的ケアのある方の場合には、選択肢が極めて少ないのが現状です。その選択肢の一つとしてグループホームは、現行の制度上だと看護師配置などの難しい課題が山積しているため、選択できるほどの数が揃っていません。まだ始まったばかりですが、「ユミト」では入居したご本人とご家族との適度な距離感が生まれ、より一層良い関係性が築けているようにお見受けしています。前段でお伝えした意思決定支援など様々な実践を通じて、医療的ケアのある方が利用できるグループホームの必要性を社会に訴えていきたと考えています。— NPO 法人ができることは限られていますが、関係機関、ご家族からのご理解とご協力をいただきながら、進んでいきたいと思っています。

【あとがき】ユミトさんの取材を終えて、あきらめないその勇氣に心を動かされた自分に気付きました。あくまで自らの実践を通して、重度重複障害のある方の生活の場として在宅と施設以外の選択肢が必要であることを社会に訴えかけるその姿に、障害がある方の支援に従事する者の誇りを見た気がしました。